

平成 1 5 年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第 4 号 (7 月)

平成 1 5 年 7 月 2 日
山形県病害虫防除所

[概 要]

普通作物：斑点米カメムシ類の発生量が多い予想です（7月2日付け注意報第1号を発表）。
生息密度低減のため、出穂2週間前までに畦畔・農道・休耕田等の除草（草刈り、除草
剤散布、耕耘）を徹底してください。

いねの葉いもちの発生量は平年並の予想です。早期発見・早期防除を徹底してください。

園芸作物：りんごの斑点落葉病はやや多い発生予想です。梅雨期間中は天候によって病害が増加
する場合も予想されるので、降雨が続く場合には散布間隔を短くするなど適切な防除対
策を図ってください。

次回の発表は7月30日の予定です。

予報内容一覧

作 物 名	病 害 虫 名	発生時期	発 生 量
い ね	葉いもち	-	平年並
	紋枯病	-	平年並
	斑点米カメムシ類	-	多い
り ん ご	コバネイナゴ	-	平年並
	斑点落葉病	-	やや多い
	キンモンホソガ	平年並	やや少ない
も も	灰星病	-	平年並
	モモハモグリガ	平年並	少ない
西 洋 な し	輪紋病	-	平年並 *
	灰色かび病	-	やや少ない
ぶ ど う	果樹カメムシ類(り・も・な・か)	-	やや少ない
	モモシンクイガ(り・も・西)	-	平年並
	ハマキムシ類(り・な・お)	平年並	少ない
	ハダニ類(り・も・な・ぶ・お)	-	平年並
	チャノキイロアザミウマ(ぶ・か)	平年並	やや少ない
	つる枯病	-	平年並
す い か	炭そ病	-	平年並
	べと病	-	平年並
夏 秋 き ゅ う り	斑点細菌病	-	やや少ない
露 地 メ ロ ン	アブラムシ類(す・夏・メ・き)	-	平年並
野 菜 花 き 共 通 害 虫	ハダニ類(す・夏・メ・き)	-	平年並

() 内 り：りんご、も：もも、な：なし(日本なし、西洋なし)、西：西洋なし、
ぶ：ぶどう、お：おうとう、か：かき、す：すいか、夏：夏秋きゅうり、メ：露地メロン、
き：きく * 感染量

下記の病害虫は、防除上注意すべき事項等について記載しています。

作 物 名	病 害 虫 名
い ね	ばか苗病、ニカメイガ、セジロウンカ、コブノメイガ、
だ い ず	フタオビコヤガ
ぶ ど う	ジャガイモヒゲナガアブラムシ
す い か	晩腐病
秋 冬 ね ぎ	疫病・褐色腐敗病
き く	シロイチモジヨトウ
	アザミウマ類

山形県病害虫防除所		病害虫予察情報ファクスサービス	
本 所	023-644-4241 FAX 023-644-4746	FAX 023-644-4531	
庄内支所	0235-78-3115 FAX 0235-78-3116		

ホームページ (URL) <http://www.jpnpn.ne.jp/yamagata/>

山形県農薬危害防止運動実施中

実施期間 平成15年6月20日～8月20日

山形県では農林水産省・厚生労働省・市町村・農業者団体・農薬販売協会・県医師会等の関係機関と連携して運動を実施します。農薬が最も使用される時期を重点に、全県的な運動をおこないます。

1. 農薬の計画的な購入と適切な保管管理

農薬は農林水産省登録番号のある登録農薬を必要量だけ計画的に購入する。
農薬は鍵のかかる専用保管庫に保管し、盗難されることがないように管理する。
購入時は有効年月を確認し期限内に使用する。

2. 農薬の危被害事故の防止

散布者の危被害事故防止のため、農薬散布を行う場合、日中の高温時の散布を避けることや体調が悪いときは無理せず農薬散布をやめることが大切です。
農薬散布時には、周辺住民や他作物の耕作者へ十分配慮するとともに、散布方法や散布薬剤によっては事前に周辺にお知らせすることも必要です。また、河川等の流入がないように周辺環境にも十分注意した使用を心がけることが重要です。

3. ラベルに記載された使用方法を守り、安全な農産物生産を！

適用作物、使用量（粒剤、粉剤の場合は使用量、液剤、水和剤の場合は希釈濃度、総使用回数、使用時期（収穫前使用日数）は、食用作物に使用する場合は遵守すべき使用基準です。違反した使用は農薬取締法違反になるばかりでなく、食品衛生法違反の農産物となる危険があります。

4. わからないことは農薬のプロに相談を

県知事が認定した農薬管理指導士、農薬適正使用推進員に相談しましょう。
各農業協同組合、農薬販売協会加盟店は農薬販売のプロです。

5. 万が一の事故の場合には

農薬の誤使用等で健康被害が発生した場合には、最寄りの医療機関や保健所に速やかに連絡してください。
農薬の不法投棄は廃棄物処理法違反になります。適切な処分方法がありますので不要な農薬を処分する場合には、農協や農薬販売店などにご相談ください。

農薬の相談は： 農業技術課(023-630-3072) 病虫害防除所(023-644-4241)
最寄りの総合支庁農業普及課
ホームページ（愛称：あぐりん）<http://www.agrin.jp/>

毒物・劇物の相談は： 保健薬務課（023-630-2333） 最寄りの各保健所

予報根拠中の記号 （＋）：発生量を多くする要因 （－）：発生量を少なくする要因

普通作物

1. いね

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 葉いもち	平年並

1) 予報の根拠

- ア．7月1日現在、本田での発生は確認していない（平年初確認：6月22日）。（－）
- イ．6月30日現在のイネの草丈は長く、茎数はやや少なく、葉色は平年並からやや濃い。（＋）
- ウ．7月の天候は、気温が平年並か低い、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア．6月25～27日頃にかけて感染好適条件が出現している地域があるので、本田の見回りを徹底し、早期発見に努め、発生をみたら直ちに薬剤を散布する。
- イ．野菜等に敷きわらを行っている場合、その周辺の水田では発生に注意する。
- ウ．育苗箱施用薬剤を散布したところでも今後の葉いもちの発生に留意する。
- エ．薬剤耐性菌出現防止のため、同一成分の薬剤の連用は避ける。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) 紋枯病	平年並

1) 予報の根拠

- ア．7月1日現在、発生は確認していない（平年初発生：7月3日）。
- イ．前年の発生量はやや多かった。（＋）
- ウ．6月30日現在のイネの茎数はやや少ない。（－）
- エ．7月の天候は、気温が平年並か低い、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。（－）

2) 防除上注意すべき事項

- ア．例年発生の多いほ場では防除を徹底する。
- イ．穂孕後期および出穂期での防除要否の目安は下表のとおりである。

防除要否の目安（調査場所：水田中央部）

判定時期	品 種	防除の判断基準
穂孕後期 （平年：7月25日頃）	はえぬき	発病株率 10%以上で防除
	ササニシキ	発病株率 7%以上で防除
出穂期 （平年：8月5日頃）	はえぬき	発病株率 15%以上で防除
	ササニシキ	発病株率 10%以上で防除

- ウ．薬剤散布量が少ないと効果が劣るので散布量を厳守し、株元によく付着するように散布する。

(3) ばか苗病

発生がみられる場合は直ちに抜き取り適切に処分する。

(4) ニカメイガ

第1世代幼虫による葉鞘変色茎の発生は全般的に少ない傾向にあるが、発生の目立つところでは「県病虫害防除基準」を参照し、適切な防除を実施する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(5) 斑点米カメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメ・オトゲシラホシカメシ)	多い

< 7月2日付け注意報第1号発表 >

1) 予報の根拠

- ア．斑点米カメムシ類の畦畔、農道等における発生確認地点率は前年と比べてやや高く、水田内のアカヒゲホソミドリカスミカメの確認地点率も平年より高い。(+)
- イ．6月30日現在、予察灯(農業試験場本場、庄内支場)でのアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数は平年より多い。また、園芸試験場予察灯での誘殺数も多い。(+)
- ウ．7月の天候は、気温が平年並か低い、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア．生息場所での密度低減のため、畦畔、農道等の水田周辺の雑草地の除草を出穂2週間前まで励行する。なお、刈り取った草は搬出する。
- イ．休耕田などで雑草が繁茂しているところでは、耕耘などによる雑草対策も有効である。
- ウ．発生が多いところでは、穂孕後期に水田内の薬剤防除を行い、密度低減をはかる。その際、畦畔等の生息場所にも薬剤が十分かかるようにする。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(6) コバネイナゴ	平年並

1) 予報の根拠

- ア．一部地域で食害の目立つほ場があるが、発生量は全般に平年並である。

2) 防除上注意すべき事項

- ア．7月上旬～中旬の20回すくい取り虫数が100頭以上の場合は防除を行う。
- イ．防除を実施する場合は事前に畦畔等の草刈りを行い、薬剤を散布する。
- ウ．薬剤散布にあたっては、薬剤の収穫前使用日数を厳守する。

(7) セジロウンカ

6月30日に飛来を確認した。低気圧や梅雨前線にともなって多飛来することもあるので、今後の発生動向に注意する。

(8) コブノメイガ

7月1日現在、飛来は確認されていないが、低気圧や梅雨前線にともなって多飛来することもあるので、今後の発生動向に注意する。

(9) フタオビコヤガ(イネアオムシ)

7月1日現在、第1世代幼虫の発生は平年並である。なお、局部的に多発することがあるので、5月に多発したところでは特に注意する。被害は7月上旬に見え始めるので、ほ場をよく観察し、発生が多い場合には被害初期に薬剤を散布する。

2. だいず

(1) ジャガイモヒゲナガアブラムシ

6月後半の巡回調査等でジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生及び吸汁痕(黄色斑点)が確認されている。急激に密度が高まることもあるので、ほ場を十分に観察し、今後の発生動向に注意する。

園芸作物

１．りんご

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(１) 斑点落葉病	やや多い

１) 予報の根拠

ア．７月１日現在、園地間差がみられるが全般的に発生量はやや多い。(+)

イ．７月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

２) 防除上注意すべき事項

ア．不必要な徒長枝は、散布薬液の到達を妨げ散布ムラを生じやすいので、せん除し適切に処分する。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
(２) キンモンホソガ	平年並	やや少ない

１) 予報の根拠

ア．フェロモントラップにおける第１世代成虫の誘殺始期は平年並である。

イ．第１世代幼虫による被害はやや少なかった。(-)

ウ．７月の気温は、平年並か低い可能性が大きいと予報されている。

２) 防除上注意すべき事項

ア．発生のみられる園地では、７月中、下旬に防除を行う。

２．も も

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(１) 灰星病	平年並

１) 予報の根拠

ア．７月１日現在、実腐れは確認していない(平年初確認日：７月２５日)。

イ．前年の発生量は平年並であった。

ウ．７月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

２) 防除上注意すべき事項

ア．早生種・中生種は収穫２０日前から、晩生種は収穫３０日前から収穫直前までの防除が重要である。

イ．被害果は見つけしだい摘み取り適切に処分する。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
(２) モモハモグリガ	平年並	少ない

１) 予報の根拠

ア．フェロモントラップにおける第１世代成虫の誘殺盛期は平年並である。

イ．７月１日現在、幼虫による被害は少ない。(-)

ウ．７月の気温は、平年並か低い可能性が大きいと予報されている。

２) 防除上注意すべき事項

ア．若齢幼虫の発生がみられたら有機リン剤を散布する。

3. 西洋なし

病 害 虫 名	予 報 内 容
	感 染 量
(1) 輪紋病	平年並

1) 予報の根拠

ア. 7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 梅雨明け直後までは重点防除時期なので、7月上、中、下旬に薬液が枝幹部にも十分かかるように散布する。

イ. 降雨が続く場合は、感染が多くなるので、散布間隔を短くして防除する。

ウ. 不必要な徒長枝は、散布薬液の到達を著しく不良にするのでせん除し適切に処分する。

4. ぶどう

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 灰色かび病	やや少ない

1) 予報の根拠

ア. 落花直後の発生量は少ない。(-)

イ. 7月1日現在、県予察ほ場（園芸試験場）における花冠の付着率は低い。(-)

ウ. 7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。
(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 発病した果房、果粒は見つけしだい摘み取り適切に処分する。

(2) 晩腐病

7月1日現在、巡回調査等で被害果はみられなかった（平年初確認日：7月28日）。

薬剤は果房が汚染しないよう注意して散布し、被害粒は二次感染防止のため見つけしだい摘み取り適切に処分する。

5. 果樹共通害虫

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
りんご・もも・なし (日本なし、西洋なし) ・かき	(1) 果樹カメムシ類 (クサキカメシ、チャバネカメシ)	やや少ない

1) 予報の根拠

ア. 6月の巡回調査ほ場等における被害果および成虫の確認頻度は低い。(-)

イ. 園芸試験場、農業試験場内における指標植物（キリ、ナナカマド）上の寄生数は、前年よりも少ない。

ウ. 7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 成虫の園地への飛来は長期にわたるので、今後の発生状況に注意する。

イ. 園地内を十分に見回り、成幼虫を確認したら防除を行う。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
りんご・もも・西洋なし	(2) モモシンクイガ	平年並

1) 予報の根拠

ア．6月の巡回調査の結果、発生量は平年並である。

2) 防除上注意すべき事項

ア．被害果は見つけしだい摘み取り適切に処分する。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容	
		発 生 時 期	発 生 量
りんご・なし・おうとう	(3) ハマキムシ類	平年並	少ない

1) 予報の根拠

ア．予察灯におけるハマキムシ類の誘殺盛期は平年並である。

イ．第1世代幼虫による被害は少ない。(-)

ウ．7月の気温は、平年並か低い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア．被害がみられる園地では、若齢幼虫時に樹冠上部にも薬液が十分付着するよう散布する。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
りんご・もも・なし・ぶどう・おうとう	(4) ハダニ類	平年並

1) 予報の根拠

ア．7月1日現在、ハダニ類の発生量は平年並である。

イ．7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア．梅雨明け以降は、ハダニの発生が多くなるので発生状況に注意し、1葉当たりの成幼虫数が3頭以上寄生している場合には直ちに殺ダニ剤を散布する。

イ．ナミハダニの増殖を防止するため、園地の除草を徹底し、ひこばえや不必要な徒長枝はせん除する。

ウ．おうとうでは収穫終了後、速やかに被覆資材を除去し、ハダニの発生が見られる場合は殺ダニ剤を散布する。

エ．抵抗性出現を防止するため、同一成分の薬剤は年1回の使用とする。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容	
		発 生 時 期	発 生 量
ぶどう・かき	(5) チャノキイロアザミウマ	平年並	やや少ない

1) 予報の根拠

ア．7月1日現在、県予察ほ場（園芸試験場）の黄色粘着トラップにおける誘殺は認められていない（平年初誘殺日：7月6日）。

イ．前年の発生量はやや少なかった。(-)

ウ．7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア．ぶどう大粒種で例年被害の多い園では、袋かけ前に合成ピレスロイド剤を散布する。

イ．かきでは幼果とへたのすき間にも薬液がかかるよう丁寧に散布する。

6. すいか

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) つる枯病 (2) 炭そ病	平年並

1) 予報の根拠

ア. 7月1日現在、炭そ病の発生量は平年並である。

イ. 6月後半の巡回調査では、つる枯病の発生を確認していない。

ウ. 7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔が開きすぎないようにする。

イ. 転換畑や水はけの悪いほ場は排水をよくする。

(3) 疫病・褐色腐敗病

降雨が続いたり、水はけの悪いほ場で雨水が滞水した場合に突発的に大発生することがあるので以下の対策を実施する。

ア. 転換畑や水はけの悪いほ場では排水をよくする。

イ. 被害株は直ちに除去し、適切に処分する。

7. 夏秋きゅうり

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) ベと病	平年並

1) 予報の根拠

ア. 6月後半の巡回調査では、発生を確認していない。

イ. 7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 発生をみたら直ちに薬剤を散布する。また、発病葉は取り除き適切に処分する。

イ. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔が開きすぎないようにする。

ウ. 転換畑や水はけの悪いほ場は排水をよくする。

8. 露地メロン

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 斑点細菌病	やや少ない

1) 予報の根拠

ア. 7月1日現在の発生量は少ない。(-)

イ. 7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 発生をみたら直ちに薬剤を散布する。また、発病程度の高い葉は取り除き適切に処分する。

イ. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔が開きすぎないようにする。

9. 秋冬ねぎ

(1) シロイチモジヨトウ

低気圧や梅雨前線にともなって多飛来することもあるので、ほ場をよく観察し、被害初期(先端部が白く透けた時)に薬剤を散布する。なお、3齢以降の幼虫には薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫のうちに防除を行う。

10. きく

(1) アザミウマ類

6月下旬の巡回調査でアザミウマ類の寄生が散見されているため、以下の対策を実施する。

特にミカンキイロアザミウマはトマト黄化えそウイルス(TSWV)を媒介する主要な種であるため防除を徹底する。

ア. 雑草での増殖及び飛来を防止するため、ほ場内及び周辺の除草を徹底する。

イ. 薬剤散布の際は、株内にも薬液が到達するように十分量散布する。

ウ. 抵抗性出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループを輪用散布する。

11. 野菜・花き共通害虫

対象作物名	病虫害名	予報内容
		発生量
すいか・夏秋きゅうり ・露地メロン・きく	(1) アブラムシ類	平年並

1) 予報の根拠

ア. 7月1日現在の発生量は平年並である。

イ. 7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 早期発見に努め、密度が高くなる前に防除を徹底する。なお、薬剤は葉裏にも十分量付着するように散布する。

イ. ほ場周辺の除草に努め、ほ場内への有翅虫の飛来を防止する。

対象作物名	病虫害名	予報内容
		発生量
すいか・夏秋きゅうり ・露地メロン・きく	(2) ハダニ類	平年並

1) 予報の根拠

ア. 7月1日現在の発生量は平年並である。

イ. 7月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 早期発見に努め、密度が高くなる前に防除を徹底する。なお、薬剤は葉裏にも十分量付着するように散布する。

イ. 抵抗性出現を防止するため、同一成分の薬剤は連用しない。

東北地方 1 か月予報

予報期間 6月28日から7月27日
平成15年6月27日 仙台管区气象台発表より

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

東北日本海側では天気は概ね周期的に変わるでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か低い、降水量と日照時間は平年並の見込みです。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並か低い、3～4週目は平年並の見込みです。

< 確率 >

期 間	要 素	地 域	低・少	平年並	高・多
1 か月	気 温	東北地方	4 0	4 0	2 0
1 か月	降水量	東北地方	3 0	5 0	2 0
1 か月	日照時間	東北地方	3 0	4 0	3 0
1 週目	気 温	東北地方	4 0	5 0	1 0
2 週目	気 温	東北地方	4 0	4 0	2 0
3 ～ 4 週目	気 温	東北地方	3 0	4 0	3 0

< 予報の対象期間 >

1 か月 : 6月28日(土)～ 7月27日(日)

1 週目 : 6月28日(土)～ 7月 4日(金)

2 週目 : 7月 5日(土)～ 7月11日(金)

3 ～ 4 週目 : 7月12日(土)～ 7月25日(金)